

# 令和3年度入試

## 國學院大學経済学部 課題レポート

國學院大學入試委員会編

### はじめに

このパンフレットは令和3年度入試用です。令和2年9月から11月にかけて実施される國學院大學経済学部の総合型・学校推薦型選抜（AO入試のK-ENT課題レポート+面接型、指定校制推薦、院友子弟等特別選考）において使用します。

経済学部ホームページなどには、経済学部に入學するのにふさわしい学生像として、「アドミッション・ポリシー」が示されています。

学部全体のアドミッション・ポリシーとともに、学科ごとに、どのような学問分野に関心があり、どのような学生になりたいと望む者が、その学科に入學する者としてふさわしいかが学科アドミッション・ポリシーとして明記されていますので、ご確認ください。

本レポートの課題は、これらの学科アドミッション・ポリシーの中から、特に重要と思われる学問分野を選び作成しています。すべての分野を網羅はできていませんが、このレポートにどの程度意欲的に取り組むことができるかによって、学科ごとの適性を判断します。3,000字程度という文字数も、意欲と適性を判断するためのものです。

各課題には、調べる手順および課題文献が指示されていますので、それに従ってレポートを作成してください。課題で示されている課題文献は必ず目を通してください。手順に従った上で、各自の関心に従って、さらに信頼に足る文献やデータを探し、それらを追加して論を組み立て、自分なりの結論を導いてください。課題文献も含めて参照した全ての文献およびホームページアドレスは、必ず末尾に明記するようにしてください。なお、ホームページの使用については、本当に信頼できるサイトであるかどうか、十分に吟味した上で、使用するようにしてください。

なお、小論文やレポートの執筆に関して不安がある場合は、以下を参照することを推奨します。

戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版。

この本で示されているようなレポートの書き方の基本的なルールを守ってください。ルールを守っている前提で、初めて内容に対する評価をおこなえます。

## 経済学科

### ●課題 A 経済学的手法で考えるイノベーションのジレンマ

業界をリードしていた優良企業が市場や競争の変化に対応できずに失敗することを、米国の経営学者クリステンセンは、ハードディスクドライブ産業を例にとりて、その著書『イノベーションのジレンマ』で説きました。この事例を経済学の文脈(手法)で分析したものが文献①です。経済学というツールを用いて企業経営(そして広くは我々の社会のあり方)を分析してその方向性を考えてみることにします。以下のステップで考察し、まとまりのあるレポートを3,000字程度で執筆してください。課題文献を含め、読んだ本や参考・引用したデータや文献については、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- (1) 文献①の結論は312-313ページに要約されています。クリステンセンの言う「イノベーションのジレンマ」の原因を「共喰い」として説明しています。文献①の2章では、共喰いのことを「代替性」という概念を用いて説明しています。「代替性」とは何かを説明し、それがなぜクリステンセンの言う「イノベーションのジレンマ」の原因になるのかを説明してください。
- (2) 文献①の3章・7章では、「共喰い」とは逆に、企業をイノベーションに駆り立てる要因として「抜け駆け戦略(先制攻撃)」を説明しています。この「抜け駆け戦略」とは何か、そして「イノベーションのジレンマ」ではどのように解釈できるのか、以下の内容を盛り込んで説明してください。
  - ・「不完全競争」がカギとなる概念です。「不完全競争」とはどのような状況を表すのか、必ず説明してください。
  - ・「不完全競争」についてゲーム理論の考え方を取り入れて説明を行ってください。なお、ゲーム理論については文献②が高校生でも理解できるようにやさしく解説しています。
- (3) 文献①は「イノベーションのジレンマ」について経済学的手法を用いて分析を行っています。上記の分析視角を用いて、具体的な事例(企業活動に限らず、世の中で起こっていること)をあげて考察してください。

### 課題文献

- ①伊神満(2018)『「イノベーターのジレンマ」の経済学的手法の解明』日経BP。
- ②松井彰彦(2010)『高校生からのゲーム理論』筑摩書房。
- ③クレイトン・クリステンセン、玉田俊平太監修/伊豆原弓訳(2001)『イノベーションのジレンマ増補改訂版』翔泳社。

※③は高校生にはかなり難しい内容ですので、余裕があったら読んでみてください。

## ●課題 B 地域金融機関の役割と迫られる変革

今日、日本の金融システムの問題で特に注目されているのが地域金融です。2019年4月に日銀が発表したレポートでは、10年後には地方銀行のおよそ6割が赤字になると指摘されました。地域金融機関の経営は年々厳しさを増しており、その改革は待ったなしの状況なのです。また、地域経済における地域金融機関の役割についても大きな変革を迫られています。そこで、今後の地域金融のあり方について、課題文献①～③に依拠しながら、以下のステップで考察し、まとまりのあるレポートを3,000字程度で執筆してください。課題文献を含め、読んだ本や参考・引用したデータや文献については、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- (1) 2015年に就任した森金融庁長官による地域金融行政の方針転換について、具体的にどのように転換したのか、それまでの方針と新たな方針の違いが明確になるように説明してください。また、そのうえで、このような方針転換が必要となった背景についても説明してください。
- (2) 文献②で示されている「日本型金融排除」とは何か、その基本的な概念を「信用保証制度」の具体的な仕組みとメリット・デメリットに触れながら説明してください。そして、金融排除先を金融包摂に変えるには何が必要か、課題文献に描かれている具体例に触れながら、「事業性評価」の概念を用いて説明してください。
- (3) 地域経済を支えるために、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合はそれぞれどのような役割を担うべきか、その役割分担の今後について参考文献を参考にしながら、あなた独自の考えを具体的に説明してください。

### 課題文献

- ①橋本卓典(2016)『捨てられる銀行』講談社。
- ②橋本卓典(2018)『金融排除 - 地銀・信金信組が口を閉ざす不都合な真実』幻冬舎。
- ③日本経済新聞社(2019)『地銀波乱』日本経済新聞出版社。

読み進める順番としては①⇒②⇒③をお勧めします。

## 経営学科

### ●課題 A ビジネスシステムの革新とテクノロジー

ビジネスシステムとは、「企業が顧客に対して価値を届けるための事業の仕組み」のことです。製品やサービスを生み出す仕組みですから、外部からはっきり見えにくいものの、企業が競争優位性を持続的に確立するために大切なものです。近年ビジネスシステムが大きく変化しており、その要因のひとつとしてデジタル通信技術（ICT/IoT）や人工知能（AI）といったテクノロジーの急速な進歩があります。

このビジネスシステムの革新について、課題文献としてリストアップした書籍や論文（①～⑥）に依拠して、まとまりのあるレポートを 3,000 字程度で執筆してください。課題文献を含め、読んだ本や参考・引用したデータや文献については、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- （1）ICT を活用してビジネスシステムを革新した企業に建設機械メーカーのコマツがあります。縮小する建設機械市場のなかで、コマツがとった戦略（ICT を活用したビジネスシステム）について具体的に説明してください。
- （2）コマツがとった戦略は、短期的に見ると利益に繋がりませんが、長期的に見ると非常に有効な戦略であったといえます。建設機械業界や建機ビジネスの仕組みを踏まえて、なぜ有効であったか説明してください。
- （3）デジタル経済の進化の中で、「自前主義」を脱却し「オープンイノベーション」を重視すべきであるとの意見があります。コマツも 2017 年にオープンな IoT プラットフォーム「LANDLOG」を共同開発しました。しかし、オープンなプラットフォームはライバル企業が使用することも可能です。なぜコマツはオープンなプラットフォームを構想したのか考察してください。

### 課題文献

- ①坂根正弘（2011）『ダントツ経営：コマツが目指す「日本国籍グローバル企業」』日本経済新聞出版社。
- ②荒川秀治（2012）「KOMTRAX STEP 2 の開発と展開」『KOMATSU TECHNICAL REPORT』Vol.48, No.150, pp.8-14.
- ③土井下健治・村本英一・神田俊彦（2010）「建設機械への ICT 応用」『KOMATSU TECHNICAL REPORT』Vol.56, No.163, pp.2-6.
- ④四家千佳史・小野寺昭則・高橋正光（2015）「建機メーカーが描く ICT 建機施工を中心とした建設現場の未来」『KOMATSU TECHNICAL REPORT』Vol.61, No.168, pp.2-6.
- ⑤新津泰昭（2014）「ICT システムを活用したサービスの提供と付加価値の創出：コマツのサービスを事例として」『一橋研究』第 38 巻 3・4 号, pp.1-14.
- ⑥小宮真人・楊皓・小池純司（2020）『日本型プラットフォームビジネス』日本経済新聞出版社。

※②～⑤については、インターネット上からダウンロードできる。

## ●課題 B シェアリングエコノミーの普及

近年、シェアリングエコノミーが拡大しています。内閣官房シェアリングエコノミー促進室は、シェアリングエコノミーを「個人等が保有する活用可能な資産等（スキルや時間等の無形のものを含む。）を、インターネット上のマッチングプラットフォームを介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動」と定義しています。

このシェアリングエコノミーについて、課題文献としてリストアップした書籍(①～④)に依拠して、次のステップで考察し、まとまりのあるレポートを3,000字程度で執筆してください。課題文献を含め、読んだ本や参考・引用したデータや文献については、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- (1) シェアリングエコノミーが拡大している理由について説明してください。
- (2) シェアリングエコノミーに対する消費者の意識の実態について、課題文献④に記載されたデータに基づいて説明するとともに、日本におけるシェアリングエコノミーへの認識の低さの背景について説明してください。
- (3) あなたが関心を持ったシェアリングエコノミーの事例を紹介してください。サービスの概要について説明するだけでなく、そのサービスの優れた点と普及に向けた課題も説明してください。
- (4) シェアリングエコノミーの普及によって、ビジネスや社会はどのように変化していくと予測されるのか、あなたの考えを説明してください。

### 課題文献

- ①野口功一(2017)『シェアリングエコノミーまるわかり』日本経済新聞出版社。
- ②アルン・スンドララジャン(著)・門脇 弘典(訳)(2016)『シェアリングエコノミー：Airbnb、Uberに続くユーザー主導の新ビジネスの全貌』日経BP社。
- ③宮崎康二(2015)『シェアリング・エコノミー：Uber、Airbnbが変えた世界』日本経済新聞出版社。
- ④総務省『平成30年版 情報通信白書』。